

IBM Tivoli OMEGAMON XE on z/OS



IBM Tivoli® OMEGAMON® XE on z/OS® により、Parallel Sysplex®、z/OS® システムにおけるすべてのエレメントの詳細な分析を短時間で簡単に実行できます。Workload Manager、サービス・クラス、およびリソースを調整し、最適化できます。1 つの画面から、z/OS 操作の複数のビュー、および他のコンポーネントとの相互作用を利用して、システム管理を簡素化できます。

z/OS の機能を完全に活用します。主要なメインフレーム・リソースの待機時間だけでなく、パフォーマンス低下原因の診断にかかる時間も最小限に抑えます。ボトルネック分析を使用してシステムの遅延を迅速に識別および解決し、CPU、LPAR、I/O、エンキュー、ページインなどにおけるリソースの詳細な使用情報を入手します。パフォーマンスをリアルタイムで表示し、使用傾向をヒストリカルな観点から表示します。業界ベストプラクティスが格納されているツールを利用して問題を解決します。また、頻繁に発生する状況には自動応答を設定します。

製品ハイライト

- 単一の統合インターフェースから IBM z/OS システムのパフォーマンスおよびアベイラビリティを先行して管理します
- 単一のフォーカル・ポイントを利用して、Workload Manager のパフォーマンスを調整および微調整します
- z/OS とその他のシステム、データベース、アプリケーション間のやり取りを表示し、パフォーマンスへの影響を判別します
- z/OS とその他のシステム、データベース、アプリケーション間のやり取りを表示し、パフォーマンスへの影響を判別します
- カップリング・ファシリティの状況および関連するリソース・メトリックスを用いて、IBM Parallel Sysplex 環境のアベイラビリティの最大化を図ります



- 複数のプラットフォームとサード・パーティーのソフトウェアによる IBM Tivoli OMEGAMON XE モニターからの情報を単一のビューに統合します

機能、説明、利点		
機能	説明	利点
z/OS の複数のインスタンスを同時に表示し、リソースの使用および関連する要求を表示	Parallel Sysplex® 環境の包括的なビューを提供し、カップリング・ファシリティの状況と、関連リソースのパフォーマンス低下やメトリックスを表示します	z/OS システムの単一ビューによって管理を簡素化します
Workload Manager のサービス・クラスを高い精度で管理および調整	詳細なリソース・メトリックスを、高度なワークロード管理の基礎として使用します	詳細なリソース・メトリックスを高度なワークロード管理の基礎として使用できます。サービス定義から、ワークロード・パフォーマンス、そしてリソースの最適化まで、ワークロード管理を微調整します
ボトルネック分析で長すぎる待機時間を突き止めると同時に、影響分析でリソースの競合により遅延が発生している箇所を表示	CPU、LPAR、I/O、エンキュー、ページインなどの主要なメインフレーム・リソースの待機時間を測定し、ワークロードの遅延が発生している箇所を示します	パフォーマンス低下の原因を突き止めることで、単調な作業に要する時間を短縮します
Parallel Sysplex 環境で動的なワークロードを管理	チャンネルから DASD まで、関連する I/O サブシステム情報を提供します	共有リソース上の競合する要求を管理します
IBM 暗号化コプロセッサ向けのリアルタイムのパフォーマンス・メトリックス	暗号化プロセッサが正しく構成されていることを確認し、ハイ・セキュリティのアプリケーションのパフォーマンス・レベルを満たします	データおよびトランザクションのセキュリティ要件を満たします
Web ブラウザー・インターフェースで、どこからでもシステムの状況をモニター可能	Tivoli OMEGAMON インターフェース全体で、共通の使い慣れたインターフェースを維持できます	特別なトレーニングを受ける必要がありません。モニターあるいは製品に個別にログインすることなくナビゲーションできます
Situation Editor により複雑なしきい値、状況、アラートを作成	非常にきめ細かい制御が可能になります	メインフレームのスクリプトやコーディングのスキルをよく知らなくても、自動化により問題に迅速に対応できます
Expert Advice によりアラートに対する説明を予め記述することが可能。これにより環境に固有の知識やソリューションを取り込むことが可能となります。	繰り返し発生する問題の解決に役立ちます	問題の解決および従業員全体の知識の保持に役立ち、特に、リフレックス・オートメーション、自動アラート・エスカレーション、ポリシー・ベースの自動化などの自動化ソリューションと連携している場合に有効です